

『洪水から命を守る』

宮代町立百間中学校 3年 吉竹 秋宏

僕はある休みの日に家族と一緒に首都圏外郭放水路という所へ行った。貯水槽のある地下へ行くと神殿のように柱が何本も立っていてとても圧巻だった。ガイドさんの説明によると首都圏外郭放水路は、洪水を防ぐために作られ、古利根川や倉松川などの河川が洪水になった時に一時的に水をためたりして水の勢いを弱めてから別の川にまた水を流して洪水を防ぐ仕組みだという。

この外郭放水路が作られた理由として、元々この場所は地形がお皿のようになっていて、大雨などで水が集まりやすく、それに加えて河川の勾配がとても緩やかになっているので集まった水を排水しようとしても水が流れにくく、冠水が何度も起きてしまったため、およそ13年の工事をかけて完成した。この放水路の建設で使った金額は2300億だと聞いてとても驚いた。だが、そんなにお金を使っても大丈夫なのかと少し思ったが、ガイドさんによると、この放水路ができてから管轄内での冠水がなくなり、この放水路によって被害を免れた規模はおよそ1兆5億円にのぼるという。この話を聞いて、この放水路がどれくらいの洪水被害を防いだかが分かった。

特に2019年の台風19号では、
「荒川が決壊してしまうのでは。」

と危惧されていたところ、首都圏を洪水被害から防ぐために作られた首都圏外郭放水路のおかげで荒川が決壊を防ぐことができたと聞いて、この放水路がどれだけ洪水の被害をなくしているかが分かった。

だが、自分では多くの人がこうした事業について
「税金を無駄に使うな」

と言うと思ったからだ。それは最近のニュースでは、政府が税金の無駄遣いについてたびたび問題視しているからだ。しかし、僕は税金をもっと支出したほうがいいと思う。なぜなら政府がお金を使うと後になってその分の見返りがあるからだ。その例としてデンマークでは消費税が25%だという。それでもみんなが消費税を払う理由として、デンマークでは、教育費は幼稚園から大学まで無料で病院も無料だからだ。

「高い税金を払った分、生活がラクになる。」

と分かっているからだ。それ以外にもお金を使うことで所得が生み出され、投資することで設備が残る。設備があれば災害が起きても命を守ることができ、次の世代にもそれぞれ享受することができるからだ。いわば僕たちは過去の国民が税金を払うことで放水路のおかげで台風19号で荒川が決壊の危機から助かったと言えるからだ。

税金はいろいろな場面で僕たちを支えている。税金は身の回り以外にも見えない所で災害

などから命を守っている。そしてもう一度税金の存り方についてもう一度考えて生活していきたいと思った。